



いっしょらぼ
〜こころのサポート〜

スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

今月号と来月号とシリーズで、「特別支援学級」と「特別支援学校」についてふれていきます。

文部科学省は、特別支援教育の理念を、「障がいのある幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持つ力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行うこと」と定義しています。

町では現在、どの小・中学校にも知的障害児学級と自閉症・情緒障害児学級がそれぞれ開設されています。また、障がいの程度によっては小諸にある特別支援学校の県立小諸養護学校へ通うこととなります。ひとことに障がいといっても、視覚・聴覚・肢体不自由・知的・情緒・自閉症など、それぞれニーズによって専門的な対応が異なってきました。

町内の小中学校にある特別支援学級の、「知的障害児学級」と「自閉症・情緒障害児学級」では、学級内容も子どもへの対応も全く異なってきました。知的障害児学級は、それぞれの子どもに合った学習や支援を提供するところで、自閉症・情緒障害児学級は、小人数の集団でそれぞれの学年に応じた学習を行っていくところ、と大まかにとらえることができます。

利用している子どもの生活パターンは様々で、1日中特別支援学級で生活し行事やみんなどできそうな場面でクラスに戻るというパターンや、普段はクラスで生活し、必要性に応じて特別支援学級を利用するというパターンなど、子どもの様子と学習の状況やクラスの様子によって、それぞれにあった対応を相談しながら決めていきます。特別支援学級と学年のクラス（これを原級といいます）を行ったり来たりしている子どもは町内の小・中学校に約60人いて、原級への出入りの際には「いつてきます」「いつてらっしゃい」「おかえり」「たがいま」と子ども同士が声をかけあっています。ときには心ない言葉や態度で、相手を傷つけ周囲

を不愉快にさせてしまう子どももいますが、大多数の子どもが、子ども達なりにそれぞれ理解しあって関わっています。

「発達段階に応じて、学校の時間・環境・内容にある程度合わせられ、それが本人にとって過剰なストレスにならない」場合に、特別支援学級とクラスを利用しながら地域の学校に通う、ということになるでしょうか。

一方、県立小諸養護学校は、カリキュラムも時間もゆとりとした環境になっていて、それぞれの子どもの成長にとって、その時々最適な教育や支援を提供してくれるところと、1年に数回、地域の小・中学校の同じ学年のクラスや特別支援学級との交流も行なっています。また、通学は送迎バスを利用する子どももいれば、自力で電車に乗って登下校している子どもたちもいます。

「本人のニーズやペースに学校の時間・環境・内容が合わせやすくなっているため、生活全般の安定と本人の成長をゆっくり見守る」ということになるのですね。

第48回軽井沢町青少年

柔剣道大会

青少年が、柔剣道を通じてたくましい精神力を培い、健やかに育つことを願い、柔剣道大会を開催します。

日頃より一生懸命稽古を積んできた成果に対し、大勢の皆さんの応援をお願いいたします。

とき

11月25日(日)
開会式 9時、
社会体育館

出場者

町内在住の小中学生
高校生 二般
御代田町在住の小中学生



【問い合わせ】

町青少年問題協議会事務局
(教育委員会 生涯学習係)
☎45・8695

11月は

「全国子ども・若者育成支援強調月間」です

未来をつくる青少年が、社会性を身につけ、心豊かに、たくましく成長していくことは、町民すべての願いです。

町青少年問題協議会では、「青少年は地域社会からはぐくむ」という観点に立ち、活動していきます。「全国子ども・若者育成支援強調月間」においては、青少年柔剣道大会の開催、および町内小中学校にて登校時に愛の声かけ運動を行います。また、町内においての有害環境実態調査を行います。青少年にとってより良い社会環境づくりに取り組むため、家庭、学校、職場、地域および関係機関が一体となった活動を実施します。

青少年の自律した生活を促進・支援するため、町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。